

第19期 中間報告書

令和2年1月1日から令和2年6月30日まで

TOABO

株式会社トーア紡コーポレーション



Top Message ごあいさつ

100周年に向かうトア紡グループ

「アメニティ＝快適」という価値を未来に、暮らしに届けるため商品・研究開発を5つの事業分野で展開し、TOABOブランドのさらなる飛躍を目指します。

第19期の業績について

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループ第19期第2四半期連結累計期間（令和2年1月1日から令和2年6月30日まで）の事業概要を次のとおりご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染が拡大し、政府による緊急事態宣言の発出後、社会・経済活動が制限されたことにより、個人消費が大幅に落ち込み、景気は急速に悪化いたしました。

5月25日の緊急事態宣言の全面解除後、段階的に社会経済の活動レベルが引き上げられ、徐々に経済活動は再開しているものの、再び感染の拡大が懸念され、国内経済の先行きは予断を許さない状況になっております。

このような状況のもと、当社グループは市場ニーズを先取りする高付加価値・高品質商品を提供する「暮らしと社会の明日を紡ぐ企業」として、競争力の強化と収益性の向上に取り組んでまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大は随所に影響を及ぼし、中国では現地企業の活動が一時的に停止し、中国市場での販売も大幅に減少、国内におきましても、特に衣料事業、インテリア産業資材事業の売上が大幅に減少し、一部の工場では休業を余儀なくされるなど、大きな影響を受けました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,307百万円（前年同期比22.4%減）、営業利益は94百万円（前年同期比48.1%減）、経常利益は94百万円（前年同期比35.3%減）となりました。また、保有する投資有価証券の減損処理による投資有価証券評価損を特別損失として計上した一方、投資有価証券売却益を特別利益に計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は102百万円（前年同期比95.7%増）となりました。

今後の方針

当社グループは5つの事業を中心としてグループ全体のさらなる企業価値の向上を最大の経営課題と位置付け、各事業分野において以下の取り組みを進めてまいります。

衣料事業

新型コロナウイルス感染拡大による景気の先行き不透明感から厳しい外部環境が続くことが予想される中、衣料事業では、以下の3点に注力していきます。

1. 徹底的なコスト削減
物流の抜本的な見直しによるコスト削減、および作業の効率化による直接・間接経費の削減に取り組み、収益性の改善を進めます。
2. 国内の提案力・販売力の強化
『エコ・リサイクル・SDGs』をキーワードに、サステナブルな素材であるウールの魅力を積極的に発信し、オーガニック

クールなど高付加価値商品の販売を推進するとともに、アウトドア／スポーツブランドの新規取引先獲得を目指します。また、グループ内の縫製子会社・ニット製品製造販売子会社と連携し、スクールユニフォーム部門の販売拡大を図ります。さらに、近年の自然災害の増加や新型コロナウイルス感染拡大を受け、新規商材として難燃や抗ウイルス素材などの高機能商品の開発・販売を進めていきます。

3. 海外生産・海外販売の強化

ベトナムの生産基盤を活用したニット糸の東南アジアの日系ニッター向け販売、メンズテキスタイルのヨーロッパ向け輸出、およびブラックフォーマル用テキスタイルの日本向け販売を推進します。

インテリア産業資材事業

新型コロナウイルス感染拡大や米中貿易摩擦の影響が懸念される中、インテリア産業資材事業は以下の3つの戦略を推し進めていきます。

1. 徹底した生産の効率化

既存設備の徹底した効率化と新規分野開拓のための老朽施設の改修、新規設備への投資を進めます。また、中国子会社では、増設した設備を効率よく稼働させることで製造コストの安定化を図り、現地メーカーとの競争に対処し新規部位の受注を目指します。

2. 品質へのプライド・もの作りへのこだわり

原着ポリプロファイバーの細番手化を実現し、衣料用途への拡販を目指します。また、連続染色工程を最大限に活かした機能性製品の開発に注力するとともに、自動車産業などの次世代製品の受注獲得のために新規商材開発を進めていきます。さらに、昨今のコロナウイルス感染症への関心が高まる中、抗ウイルス商品の開発にも努めていきます。

3. 環境に配慮したもの作り

化学繊維の中では比較的CO₂排出量が少ないポリプロファイバー部門を強化していきます。また、導入済みの環境に配慮した新排水処理設備の適切な運用に加え、リサイクル事業では既存の取り組みを超えた新しいリサイクルの研究にも注力していきます。

エレクトロニクス事業

1月からの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、売上が減少しておりますが、年初の計画通り、新たな売上の柱として以下の4つの新規分野に挑戦していきます。

1. 減速機

昨年から取り組んでいる減速機分野では、メイン部品をメーカーに供給することが決定したため、売上に繋がります。

2. 電子棚札

電子棚札やICの販売分野は、取引先の承認が取れ、本年度から売上に貢献する予定です。

3. 3D実装

将来の事業の柱として期待される3D実装分野は、量産化の取り組みを開始し、国内外での基盤作りに注力していきます。

4. 特殊センサー

少子高齢化による労働力不足対策として開発が進むサービスロボット分野においては、センサーメーカーと共同開発した特殊センサーで新たな市場への参入に挑戦します。

ファインケミカル事業

今後のウィズコロナ時代のなかで予想される事業環境の大きな変化を「新たな成長の機会」と捉え、次の3つの重要課題を中心としたさらなる成長の実現に注力していきます。

1. 新型コロナウイルス感染症拡大は、社会のデジタル化をより一層加速させ、次世代通信規格5Gの普及と相まって中長期的に電子材料分野の成長を後押しするものと思われます。そのため、市場の拡大が見込まれる電子回路や放熱材料向けに加え、フォトレジスト材料向けの生産能力増強と顧客視点に立ったスピーディーな対応で拡販強化に努めていきます。

2. 高齢化社会の進展で健康美容志向がますます高まり、ヘルスケア分野はこれまで以上に多様な需要が見込まれます。そうしたなか、ジェネリック医薬品向け、検査試薬向け、さらには化粧品原料の市場ニーズをしっかりと取り込むべく、エキスパート人材の養成や既存設備の増強など、持てる経営資源の最大化を推進して売上規模と収益拡大に努めていきます。

3. 今回の感染拡大は、これまで以上に地球環境問題への対応の重要性を浮き彫りにしました。従来から環境負荷低減に有用な製造技術の確立に向け既存製品の製法改良の開発を行っておりますが、顧客満足と品質第一の理念のもと、出来るだけ早期に製法改良を実現することで企業の社会的責任を果たしていきます。

不動産事業

新型コロナウイルスの感染拡大による景気の先行き不透明感から、新規出店や事務所移転を見直す動きがある中、事業部全体として資産の有効活用をより促進し、安定収益の確保を目指します。事務所賃貸については、設備のリニューアルを行うことでオフィス環境への満足度を高め、魅力あるオフィスビルとして稼働率の向上に努めます。経年により資産価値が低下している商業施設については、計画的に修繕し、付加価値を高めることで収益性の向上に努めます。

これらの取り組みによる収益力の向上で安定的に利益を上げるとともに、「企業の果たす社会的責任」の一環として、「人」・「暮らし」・「環境」の心地よい調和を求めてまいります。そして、法令順守や危機管理を一層徹底するため、「トア紡グループ企業行動憲章」のさらなる定着と実践を推進し、より実効性のある内部統制の整備、運用を進めてまいります。

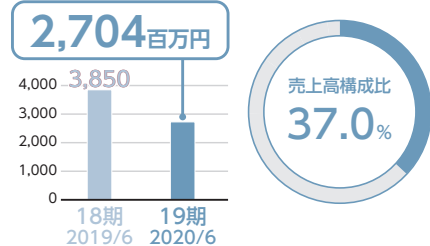
株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年8月
代表取締役社長 長井 渡

Segment 営業の概況

衣料事業

上半期売上高 単位:百万円



衣料事業は、各種繊維を原料とする衣料用素材の製造・販売および制服の縫製加工、ニット製品の製造・販売を行っております。

毛糸部門は、価格改定により利益率は改善しましたが、新型コロナウイルス感染拡大による市況の冷え込みが大きく、減収となりました。

ユニフォーム部門のスクール向け制服素材は、価格改定前の先行需要により、増収となりました。企業向けユニフォームは、新規案件の獲得件数や追加発注が減少し減収、官公庁向けも、新規案件が獲得できず減収となりました。

テキスタイル部門は、国内のスーツ需要の低迷に加え、郊外量販店の一時休業や商談中止の

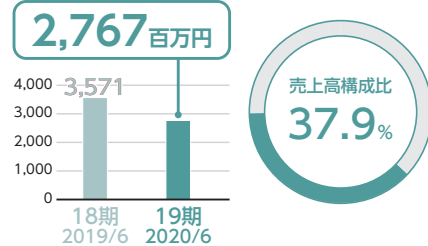
影響を受けて、大幅減収となりました。

毛糸製造販売の中国子会社は、新型コロナウイルスの影響で企業活動が一時停止したことや、市況の冷え込みにより減収、九州にある制服の縫製会社は、安定的に受注が確保できたことと原価改善により、増収増益となりました。

この結果、売上高2,704百万円(前年同期比29.8%減)、営業利益12百万円(前年同期比26.9%減)となりました。

インテリア産業 資材事業

上半期売上高 単位:百万円



インテリア産業資材事業は、自動車用内装材、住宅建材・排水処理資材・土木資材・緑化資材などさまざまな用途の産業用資材、インテリア関連製品、オレフィン系短繊維の製造および販売を行っております。

ポリプロファイバー部門は、カーペット用原綿が、3月中旬から予定されていた展示会が相次いで中止になり需要が消失、自動車内装材用原綿も、自動車メーカーの大幅な減産の影響を受けて需要が落ち込みました。

カーペット部門は、ダストコントロールマット向けは順調に推移しましたが、その他ホテル、オフィス、ホームユース用途の需要が減少

し、減収減益となりました。

不織布部門は、緑化資材・防草資材、土木関連、寝装関連とも堅調に推移し、増収増益となりました。

特殊繊維部門は、カーボン繊維が前年後半より引き続き低調で、減収となりました。

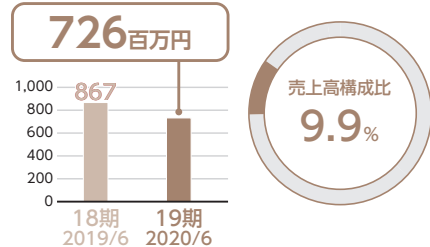
自動車内装材部門は、一部の軽自動車向けの生産は回復しているものの、その他の車種や北米向けは、新型コロナウイルス拡散の影響を受け、生産調整が入ったことにより受注が半減し、大幅な減収減益となりました。

自動車内装材製造販売の中国子会社は、新型コロナウイルスの影響により一時生産ラインが停止し、再稼働後も暫く減産が続きましたが、4月からは通常稼働しております。

この結果、インテリア産業資材事業は、売上高2,767百万円(前年同期比22.5%減)、営業損失9百万円(前年同期は営業利益106百万円)となりました。

エレクトロニクス 事業

上半期売上高 単位:百万円



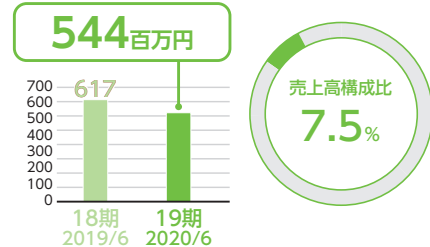
エレクトロニクス事業は、半導体・電子機器の製造および販売を行っております。

電子部品の販売は、人工呼吸器に採用された機種が好調でしたが、家電向け成型品、特殊センサー、電動工具向けコントローラーが、新型コロナウイルスの影響を受けて売上が大幅に減少しました。

この結果、売上高726百万円(前年同期比16.2%減)、営業損失1百万円(前年同期は営業利益1百万円)となりました。

ファインケミカル 事業

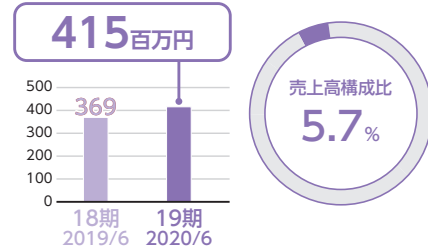
上半期売上高 単位:百万円



ファインケミカル事業は、ヘルスケア関連薬品、工業用薬品の製造および販売を行っており、自動車向け機能性材料やトナー材料の受注減と医薬品原体の在庫調整が重なった結果、売上高544百万円(前年同期比11.7%減)、営業利益40百万円(前年同期比54.9%減)となりました。

不動産事業

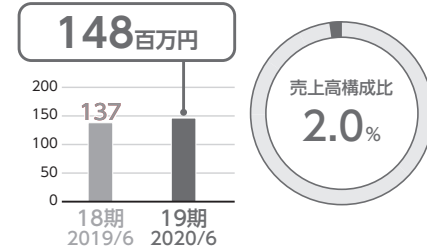
上半期売上高 単位:百万円



不動産事業は、郊外型ショッピングセンター・オフィスビル等の賃貸を行っております。新型コロナウイルスの影響を受けた一部のテナントから賃料減額の要望もありましたが、昨年秋に主要なショッピングセンターがリニューアルオープンし、収益が改善いたしました。オフィスビル賃貸におきましても、空室率の改善により順調に推移しております。この結果、売上高415百万円(前年同期比12.7%増)、営業利益272百万円(前年同期比20.6%増)となりました。

その他

上半期売上高 単位:百万円



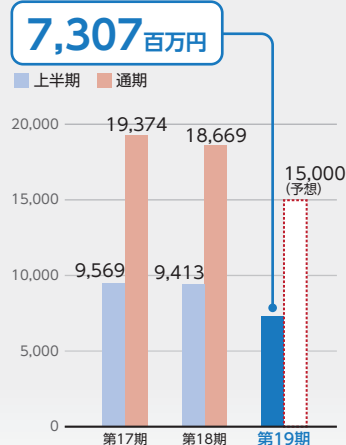
その他の事業は、自動車学校の運営、ヘルスケア商品の販売などを行っております。

自動車教習事業は、入校状況が好調に推移するとともに、トラクターの公道走行の規制緩和による大型特殊免許の特需もあり増収となりました。

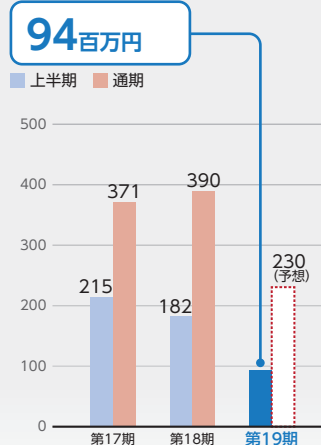
ヘルスケア事業は、ナールスゲンを配合した化粧品品のOEMが決まり、ほぼ計画通りに推移しております。

この結果、その他の事業全体の売上高は148百万円(前年同期比7.4%増)、営業損失4百万円(前年同期は営業損失28百万円)となりました。

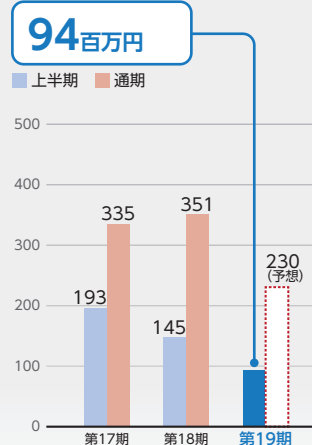
売上高 (百万円)



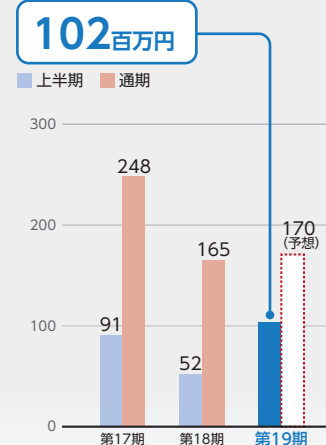
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する
四半期純利益 (百万円)



Topics

大阪新薬 新研究開発棟 本格始動

ファインケミカル事業 大阪新薬株式会社の
新研究開発棟が本格始動しました。

最新装置を配した実験室や打合せ用の大小多目的ルーム、さらには化粧品原料やフォトレジスト原料の最終工程に最適なクリーンルーム設計を導入しました。

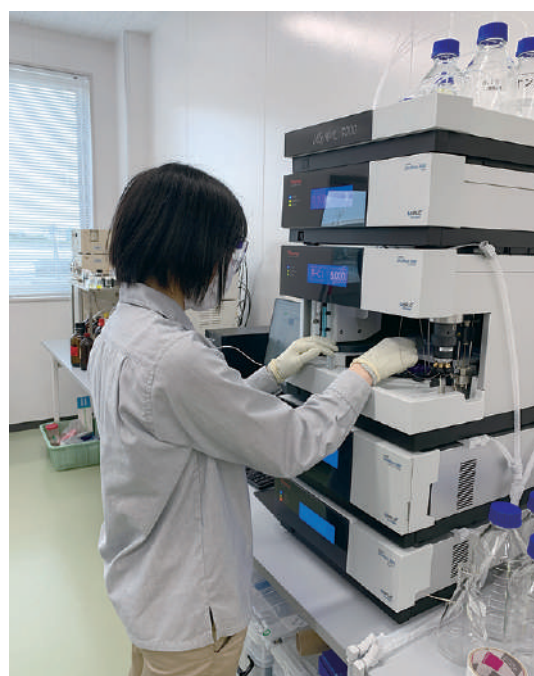
これにより、成長分野に位置づける半導体デバイス向けや高齢化社会の進展で多様なニーズが見込まれるヘルスケア分野のスペシャリティケミカルの生産・研究開発機能をより一層強化し、「アメニティ=快適」という価値を未来に社会に届けます。



新研究開発棟



エバポレーター



超高速UHPLC装置

大阪新薬株式会社

〒756-0809 山口県山陽小野田市大字東高泊字横土手2367番地22号

TEL : 0836-83-4569 URL : <http://www.toabo.co.jp/osakashinyaku/>

会社概要 (令和2年6月30日現在)

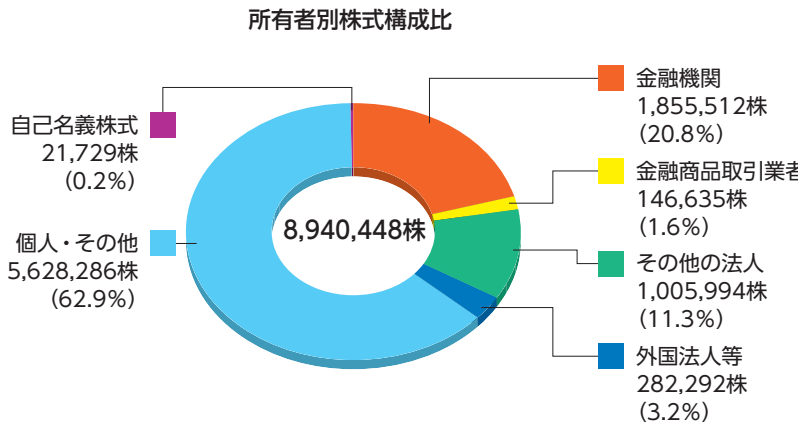
会社名 株式会社トーア紡コーポレーション
設立年月日 平成15年6月12日 (創業 大正11年2月)
資本金 3,940,097,500円
主要な事業内容 アプライアンス向け部品、ファインケミカルの製造販売および不動産賃貸、各種繊維製品の製造加工販売を行う子会社の経営管理
事業所 本社 大阪市中央区城見一丁目2番27号
クリスタルタワー18階
東京支店 東京都中央区日本橋小伝馬町14番7号
アクサ小伝馬町ビル4階
大阪工場 大阪府泉大津市虫取町一丁目1番12号
従業員数 70名
ホームページ URL <http://www.toabo.co.jp/>

役員 (令和2年6月30日現在)

代表取締役社長 長井 渡
取締役 戸口 雄吾
取締役 西井 申明
社外取締役 坂下 清信
社外取締役 丸岡 健二
常勤監査役 川崎 隆行
社外監査役 高島 志郎
社外監査役 伊藤 久弥

株式の状況 (令和2年6月30日現在)

発行可能株式総数 14,300,000株
発行済株式総数 8,940,448株
(自己名義株式21,729株を含む。)
株主数 5,701名



株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月に開催
基準日 毎年12月31日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関
同連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)
インターネットホームページ
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
単元株式数 100株
公告方法 電子公告の方法
公告掲載URL <http://www.toabo.co.jp/>
電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載いたします。

手続におけるご注意

- 株主様の住所変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、株主様が口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方に基つき、より多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。